

An Evaluation on the Sense of Satisfaction and Accomplishment of Yukata Production Training

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-03-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中村, 邦子 メールアドレス: 所属:
URL	https://otsuma.repo.nii.ac.jp/records/6001

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



浴衣の製作実習に関する意識調査

中村邦子
大妻女子大学短期大学部

An Evaluation on the Sense of Satisfaction and Accomplishment of Yukata Production Training

Kuniko Nakamura

Key Words: 浴衣, 製作実習, 意識, アンケート調査, 着装法

1. はじめに

近年、小・中・高の家庭科の授業時間数が減少の一途をたどり、特に、中学校では平成 20 年の現行の学習指導要領において選択教科がなくなったことにより、3 年間で 87.5 時間しか家庭科の授業がない状況で、戦後すぐの時期から現行の学習指導要領まで 1947 年から 2008 年までの推移は約 3 分の一とされている。そのため被服分野で取り扱われる教材は長時間要する衣服の製作物よりも、数回で完結するエプロンや、ブックカバー、ナップサックなどが主である。

経験の少ない状況で大学に入学し、家政系を専攻すると、初めて被服を製作するという学生も多く、被服構成の用語の認知度や裁縫技術は年々低下している。また、ファストファッションなど安価で手軽に入手できるアパレル製品が身近に存在し、布の状態から段階を追って、ブラウスやスカートを製作するという必然性はなくなっている。

それに反して、浴衣の製作実習を履修する学生は増えており、好みの反物を選び、自分のサイズで浴衣を製作したいと考える者が多くいる。平面構成の着物は、洋服と異なり完成しても着装法を習得しないと着ることが出来ない。そのため、製作した浴衣の着装法、帯の結び方を習得し、たたみ方、美しい着こなしや所作を身に付けることも必要となる。これらを含めて実習し、知識を得ることで履修した学生の満足度や、達成感が向上すると考える。

本研究では浴衣製作実習を履修した学生に、浴衣の魅力、履修した理由、習得した用語、各製作工程における難易度・満足度、受講して得た着物に関する知識等についてアンケート調査を行い、授業履修後の満足度、達成感について評価・分析を行った。

2. 調査方法

(1) 調査対象および調査方法

被服製作実習で浴衣の製作授業を受講した学生を対象に授業の最終回にアンケートを行った。学生は、東京都内の短期大学部 2 年生と他大学 3 年生で有効回答数は、合計 65 名である。調査時期は 2012 年 7 月と 2013 年 7 月である。

(2) 調査項目

アンケート項目は、着物着装経験、浴衣製作実習授業選択の理由、浴衣の魅力、製作した浴衣地の色、合わせたい帯の色、反物の色数、授業で習得した用語、製作工程での部位別難易度・満足度、浴衣製作に関しての評価、受講後の着物全般に関する意識などである。また、自由記述欄を設け、浴衣製作、着装実習の感想を記述してもらった。

3. 結果および考察

大妻女子大短期大学部の浴衣製作の授業では、15 回の授業のうち、11 回までに製作に関する説明を終了し、その後、たたみ方、着装実習（帯結びを含む）、和服を身に付けて気を付けるべき所作を学習し、製作した浴衣を自分で着装し、下駄をはいて近隣の靖国神社へ出かける。また、所蔵の着物と帯を用い、着物の種類と用途について学習する時間を設定している。着装室が完備しており、着付ける際も一人一人が鏡を見ながら着られる。今回、対照として、着装練習の時間が十分に取れず、実際に出かけるということもしない他大学の実習履修者にもアンケートを実施し、比較を行った。

1) 和服を着たことがあるかという設問での回答結果は、図 1 に示す通り、今までの和服着用経験

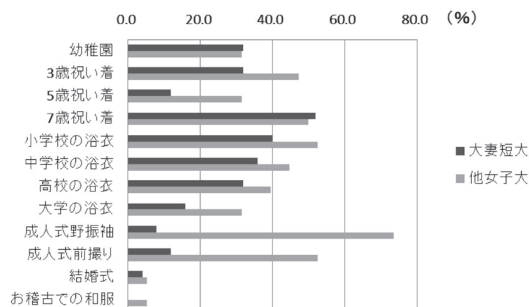


図 1 着用経験 (着用目的別)

は、7歳の祝い着の割合が高く、年齢が高くなるにつれて着用の機会が減るが、大学3年生の他女子大グループでは成人式を経ていることもあり、成人式の振袖74%、前撮りでの経験が53%と抜きんで高くなる。短大生の場合では、調査時期が2年生の7月ということもあり、その割合が低く、この点で大きな差が表れた。

2) 浴衣の製作実習の授業を選択した理由は、1位 浴衣を手作りしたい、2位 和裁の基本を学びたい、3位 被服製作全体が好きとの結果であった。

3) 浴衣の魅力として1位として挙げた理由は、図2に示す通り、花火大会やお祭りに着たい、洋服と違ったファッション性がある、色柄が洋服にない魅力があるという結果であった。3位までの合計では、色柄が洋服にない魅力がある86.15%、花火大会やお祭りに着たい78.46%、洋服と違ったファッション性がある76.92%という結果である。

最近、洋服感覚でミニ浴衣や、レースをあしらったもの、下駄でなくサンダルを合わせたものが多くみられるが、女子大生は浴衣に対し、洋服と違ったファッション性や色柄に魅力を感じているという点で伝統的な浴衣の着方を好むといえる。

4) 製作した反物の柄は、表1に示す通り紫陽花、桜、デザインした花柄、撫子、百合など和風花柄が多く、ほかに植物と生き物の組み合わせや水辺の風景と生き物の組み合わせ、夏の風物詩を表したものなど多種類にわたっていた。

5) 製作した反物の地色は、紺22%、ピンク14%、黒11%、赤9%、白9%、クリーム色6%、灰色5%、青5%の順であった。1/5が紺であり、昔ながらの浴衣のイメージを好む傾向といえる。

6) 浴衣製作工程についての難易度(易しい1 - 普通2 - 難しい3)と、出来上がりの満足度(不満1 - 普通2 - 満足3)について3段階評価しても

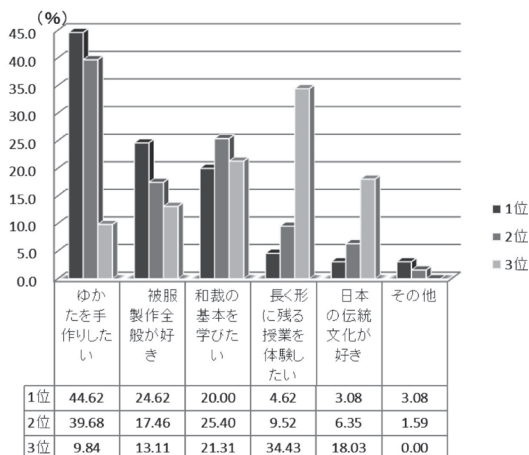


図 2 授業選択理由

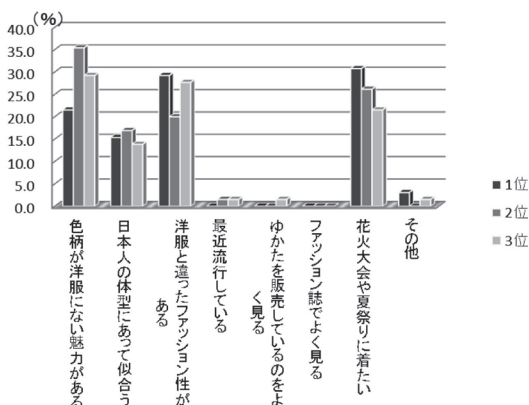


図 3 浴衣の魅力

らった。結果を図4に示す。直線を運針する背縫いは、両グループとも最も難易度が低く、直線部分を三つ折りぐけする裾ぐけや柄合わせは比較的簡単と考えている。短大生が最も難しいとしたのは、えり付けで、次に袖づくり、三つ衿芯入れ、えり先の始末が同値であった。他女子大では、同じくえり付けが最も難しく、次に、えり先の始末、かけえりであった。待ち針を打つ順番やゆとりを入れながら待ち針を打つ作業が難しく、両グループとも難易度が高かった。

満足度は、短大生では柄合わせが最も満足で2.72、袖付け2.68、袖づくり、おくみ付け、裾ぐけも2.6と高い満足度を示した。他女子大では、難易度の低かった背縫い、脇縫い、脇の始末は満足度が高いとしたが、難易度が高いとしたえり付け、えり先の始

表1 製作した浴衣の柄と地色

反物の柄	人	反物の地色	人
紫陽花	8	紺	14
桜	6	ピンク	9
花柄	6	黒	7
撫子	5	赤	6
百合	3	白	6
コスモス	3	クリーム色	4
ひまわり	2	灰色	3
朝顔	2	青	3
菖蒲	2	水色	2
とんぼ	2	青緑	2
バラ	2	黄色	2
野草	1	紫	2
てっせん	1	赤紫	2
蝶	1	緑	1
折り鶴	1	藤色	1
金魚	1	その他	1
菖蒲、おしどり	1	総計	65
椿、うちわ	1		
紫陽花、蝶	1		
うちわ	1		
かに、波、泡	1		
桔梗	1		
ドット、サクランボ	1		
とんぼ、金魚、藤の花	1		
菊、梅、川、松	1		
桜、蝶	1		
朝顔、菜の花	1		
椿、蝶	1		
動物	1		
毬	1		
籠目	1		
その他	4		
総計	65		

末、かけえりは普通との回答が多かった。

7) 授業終了時の感想は、15項目について5段階評価を行った。実際に、着付けや帯結びの時間を設定し、和服の種類について所蔵の着物を用い説明

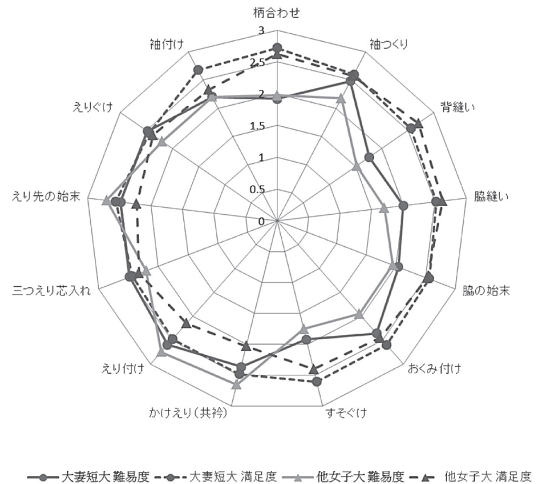


図4 部位別難易度、満足度

(易しい1-難しい3) (不満1-満足3)

を受けた短大生と、製作以外ほとんど時間が取れない他女子大を比較すると、自分で着られるようになった短大生は「浴衣の帯の結び方をほかにも調べたい」、「着物のTPOという要素について理解できた」、「季節により色、素材、を工夫することで着こなしが楽しめる」、「着物の着付けをさらに学びたい」などの項目で、他女子大グループよりも高い値を示した。浴衣の魅力を探った結果で1位であった、「浴衣を着て花火大会やお祭りに行きたい」は、製作終了時も短大生で4.84、他女子大で5.0、「日本の伝統文化の着物に触れる機会がもっとあったらいい」、「浴衣や着物を伝統文化として大切にしたい」、「和服に対する興味が深まった」、「着物のことが理解できてよかった」、との回答も両グループとも高い値を示した。また、マイナスイメージの「暑くて蒸れた」、「動きにくかった」という回答は低い値を示した。

8) 自由記述欄に書かれた大妻女子大短大生の感想を以下に示す。

自由記述欄の記載では、「浴衣が平面構成であることは知っていたが、実際に製作し直線縫いばかりだったので、よく理解することが出来た。」「手縫いの大変さがよくわかったが、ブラウス製作に比べて、達成感が得られた。自分で浴衣を着られるようになったのがよかった。」「昔の人は良くこんな作業をしていたと思う。浴衣がどのようにしてできているのか知ることが出来た。ただ縫うだけでなく、丈夫に作るために冪止め、返しぐけ、すくい止めなど

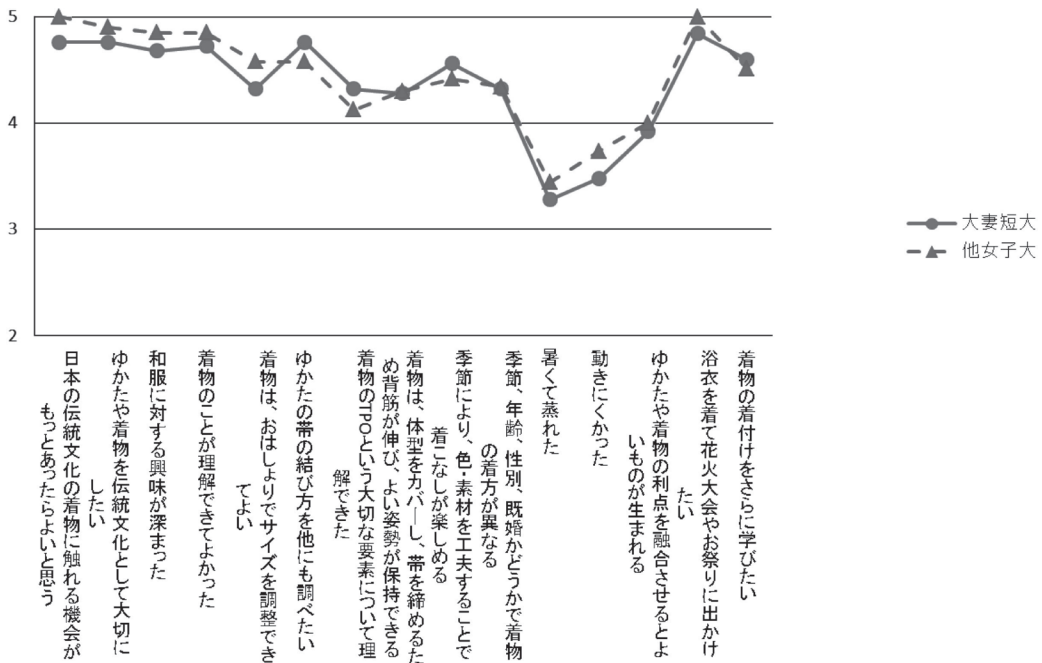


図 5 受講後の感想 (5段階評価)

様々な縫い方があったことが分かった。授業を通して浴衣や着物についての関心が深まった。」「現代では、丈の短いものや、多くの飾りのついた浴衣を見かけるが、やはり、スタンダードに装着して楽しむのが最も良いと思う。」「着装を通して、帯の結び方にも多くのアレンジがあることが改めて分かった。ミシンで縫った高校で製作した浴衣よりも、自分で色柄を選び、自分のサイズを測り、手縫いをしたことで今回のほうが愛着を持てた。」「今まで和服に興味があったが、自分で着付けたり、たたみ方の知識はなかったが、この授業を受講して浴衣が完成し、自分で着られるようになった。帯結びに時間がかかるので、練習して手際よく締められるようになりたい。」「将来的にも役立つ様々なことを学び、自分にとって新たなステップアップになった。」「日本人でありながら、浴衣の知識を全く知らないのはもったいないと思う。」など、構成に関する理解や、部分的な縫い方の意味、着装の方法を学んだことでさらに和服への興味が深まったこと、今風のアレンジされた着方よりも伝統的な浴衣の着方を大切にしたいという意識などが示された。

4. まとめ

浴衣製作の実習授業を履修した学生に、授業終了時にアンケート調査を行った。

なぜ、選択科目のゆかた製作授業を選択したかの理由、製作した浴衣の地色、柄、浴衣に対するイメージ、製作工程での部位別難易度、完成後の部位別満足度、授業を受けての感想について、記述させ分析した。その結果、自分で製作した浴衣を着てお祭りや、花火大会に行きたいという目的意識を持ち授業を選択した学生が大部分で、洋服にない色柄、ファッション性を高く評価し古典的な色柄を選択する傾向が示された。浴衣製作の部位別難易度については、直線を運針する背縫いが、最も難易度が低く、直線部分を三つ折りぐけする裾ぐけや柄合わせは比較的簡単と考えている。

難易度が高いのは、えり付けで、次に袖づくり、三つ衿芯入れ、えり先の始末の順であった。また、授業で着付けの時間を充分取り、自分で帯結びまでできるようにすることで、着付けや帯結びについて興味を深めることができるという結果を得た。

謝辞

本研究を行うに当たり、アンケートに協力していただいた学生諸氏に感謝いたします。

引用文献

- 1) 伊藤葉子：家庭科の授業時間減少をめぐる課題，日本家政学会誌，第 64 巻，第 8 号，2013，

23-25

- 2) 鈴木明子：被服製作実習における授業プロンプトの有効性の検討．—浴衣製作実習における学生の記述分析を通して—，日本教科教育学会誌，第 26 巻，第 3 号 33-40，2003
- 3) 薩本弥生他：きもの文化の伝承と発信のための教育プログラム，文化ファッション研究機構・服飾拠点共同研究 20014
- 4) 呑山委佐子他，『図でわかる基礎きもの』，(株)おうふう，2010

Summary

The students who take the production training of a yukata are increasing. In particular most of them wish to make a yukata of their favourite patterns with their own sizes.

We performed a questionnaire on the reason they took the training programme, why a yukata charms them, the knowledge they actually learned, and the difficulty of study technical terms and the construction procedure.

Based on it, we have evaluated their sense of satisfaction and accomplishment after the production training.

It is very hard to wear a yukata before learning how to wear it since it is a plane construction unlike western clothes. Therefore in addition to teach how to construct it, it is necessary to master how to knot the obi and fold up the entire yukata as well as an elegant way of wearing and moving.

The analysis of the questionnaire shows that these practical exercises improve the sense of satisfaction and accomplishment of the students on the training programme.